

見学会がもっと楽しくなる

# 鬼怒川4ダムみどころガイド2017

## 鬼怒川4ダム見学会

**日時** 7月30日(日) 9時~16時(見学時間)

**場所** 五十里・川俣・川治・湯西川の各ダム

【お問い合わせ先】

国土交通省  
鬼怒川ダム統合管理事務所  
管理課内

「森と湖に親しむ旬間」  
鬼怒川実行委員会事務局  
TEL.028-661-1342

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kinudamu/>

**参加費無料！** 事前申込も不要です

長男・五十里  
昭和31年生まれ(61歳)



次男・川俣  
昭和41年生まれ(51歳)



われら  
キヌダム  
四兄弟が  
キミを待つ！

三男・川治  
昭和58年生まれ  
(34歳)



四男・湯西川  
平成24年生まれ  
(5歳)



**普段は見学できないトコロを見られるチャンス！**

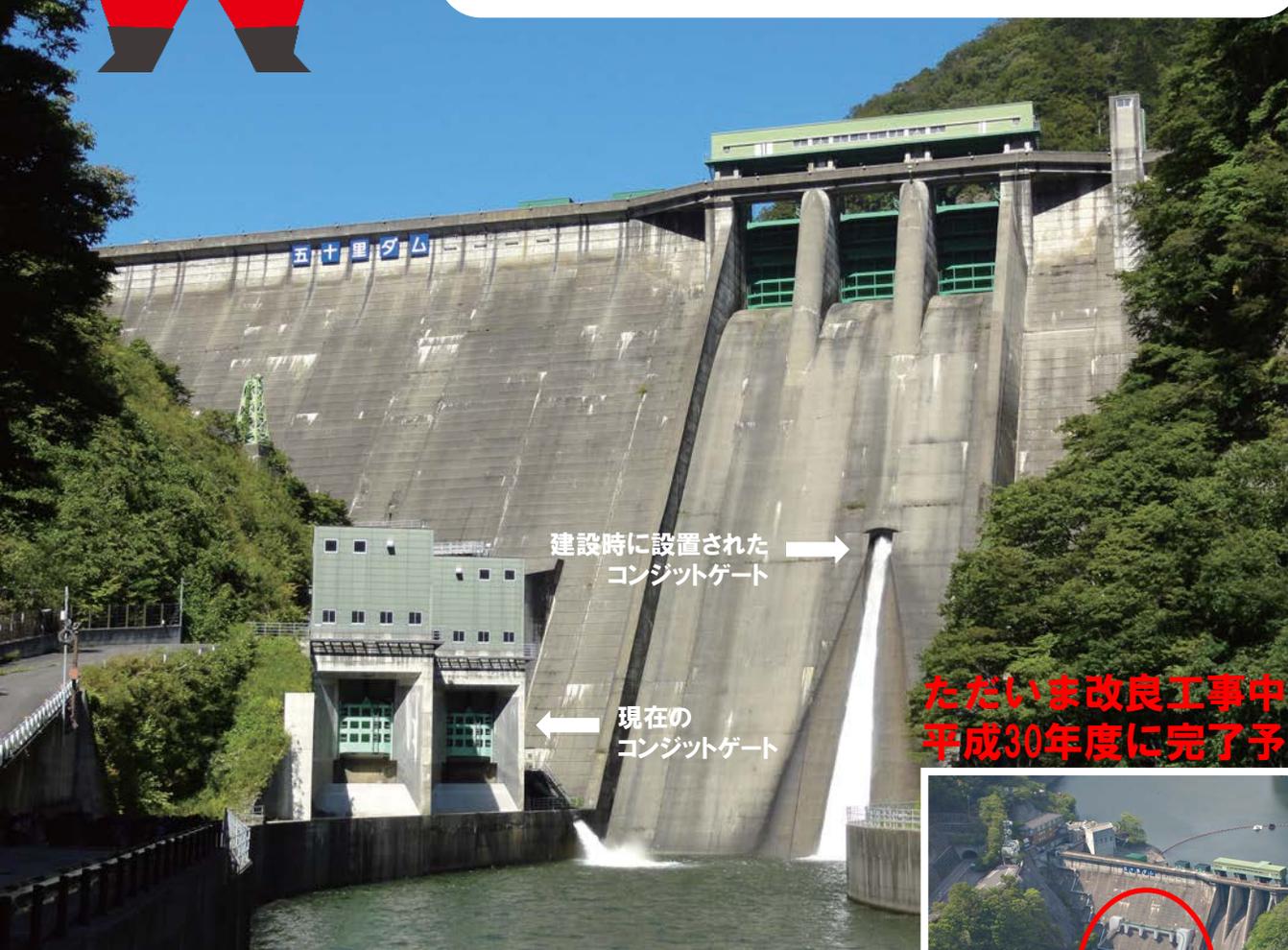
# いかり 五十里ダム

重力式ダム



わたしが生まれた昭和31年当時は、日本で一番高いダム（112m）だった。

洪水による下流の川のはんらんを防ぐための洪水調節、農業用水の供給、発電を目的としてつくられた、重力式コンクリートダムといわれるタイプのダムだ。



ただいま改良工事中  
平成30年度に完了予定



「選択取水設備」を新たに設置しています。  
鬼怒川ダム統合管理事務所のホームページ内の  
五十里ダム工事進捗状況で紹介しています！  
※工事のため、見学エリアを制限しています。



ダムマイスター  
星野夕陽さんが  
教える五十里ダムの  
ココがみどころ！

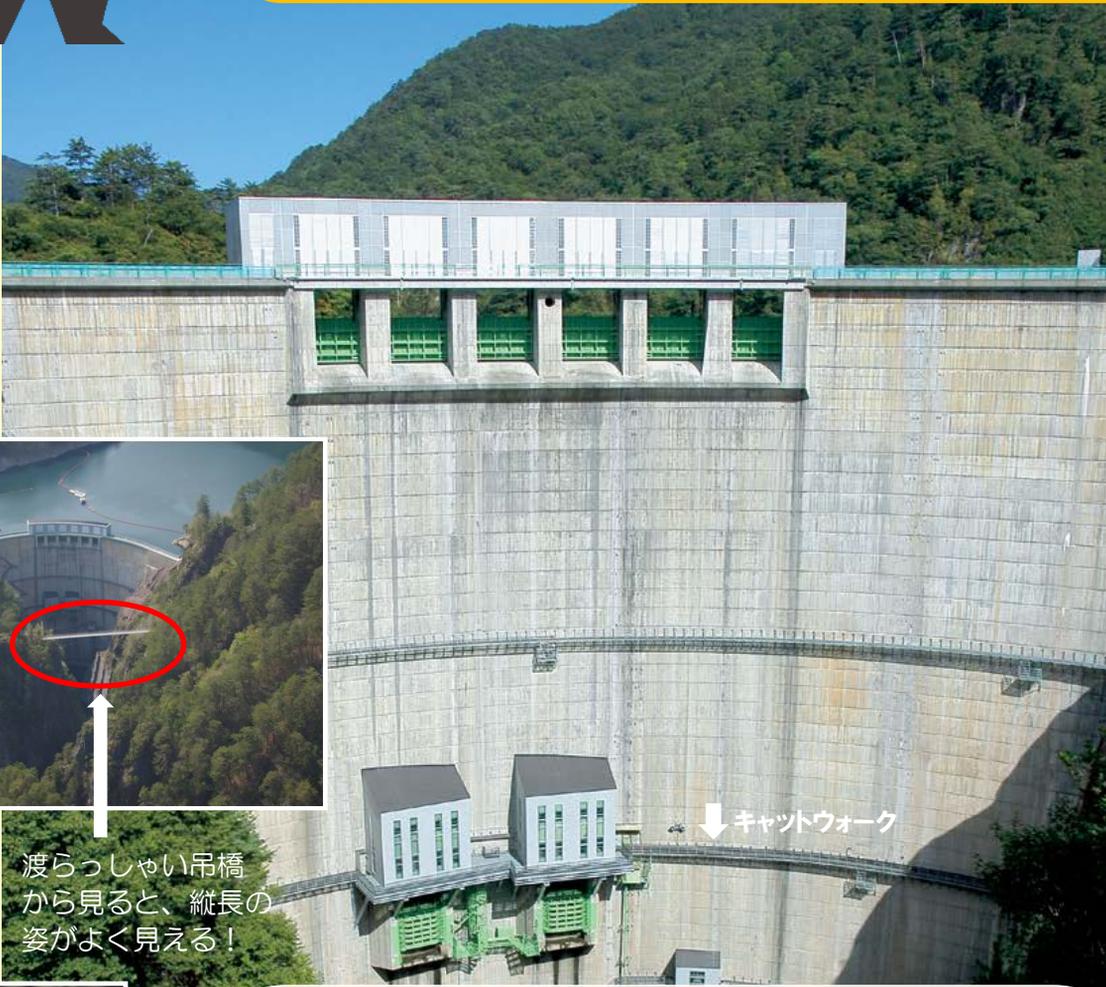
昨年、完成60周年を迎え、漂う風格はまさに歴戦の重力式コンクリートダム。見た目は風化もあり60年の時代を感じさせるが中身はもちろん現役。特に、ダム表面にはコンクリートに浮かぶ木目模様がある。これは古いダムが建設時に木枠を使ってコンクリートを固めていた名残。建設時に設置されたコンジットゲートは国内のダムでは最初期のもので、当時の技術力では全閉・全開しか出来ないゲートが設置された。



# かわ また 川俣ダム

アーチ式ダム

オレは、鬼怒川改修工事の一環としてつくられた、鬼怒川で最も上流に位置するダムさ。洪水調節、農業用水の供給、発電を目的とした、アーチ式コンクリートダムといわれるタイプのダムだ。ダムサイトは、瀬戸合峡と呼ばれる奥鬼怒の景勝地。新緑・紅葉の季節の景観は、とくに素晴らしいからぜひ来てくれ。



渡らっしゃい吊橋から見ると、縦長の姿がよく見える！

↓ キャットウォーク



ダムマイスター  
星野夕陽さんが  
教える川俣ダムの  
ココがみどころ！

川俣ダムはアーチ式ダム。堤高（ダムの高さ）117m・堤頂の長さ131mで堤高堤頂比は0.89（※）、これは日本のアーチダムとしては日本一だ。ダム正面に整備された瀬戸合峡の渡らっしゃい吊橋から見れば、その縦長の姿がよく見える。ダム建設後に設置されたエレベーターは斜めに動く斜行エレベーターだ。限られた場所に設置するために採用されたもので、かなり狭いが日常生活で斜行エレベーターを経験する事はなかなか出来ないはずなので是非乗ってみよう。斜行エレベーターで川俣ダムと同様にキャットウォークまで行ったなら、その時もダムを見上げて欲しい。アーチダムなのに下流側への傾斜が殆どないはずだ。アーチダムでもいくつかタイプがあり、川俣ダムは川俣ダムと異なるものなので違いを体験してみよう。ゴツゴツしたむき出しの岩盤と綺麗な曲線を描くダムのコントラストは絶景だ。

※ちなみに堤高・堤頂長日本一の黒部ダムの堤高堤頂比は0.37。（堤高186m、堤頂長492m）



# かわじ 川治ダム

アーチ式ダム

僕は、洪水調節、農業用水や都市用水の供給を目的につくられた、アーチ式コンクリートダム。この型式では国内で第4位の高さなんだよ。それと、僕は昭和48年に施行された水源地域対策特別措置法の適用を受けた全国で第一号のダムなんだ。



ダムマイスター  
星野夕陽さんが  
教える川治ダムの  
ココがみどころ！

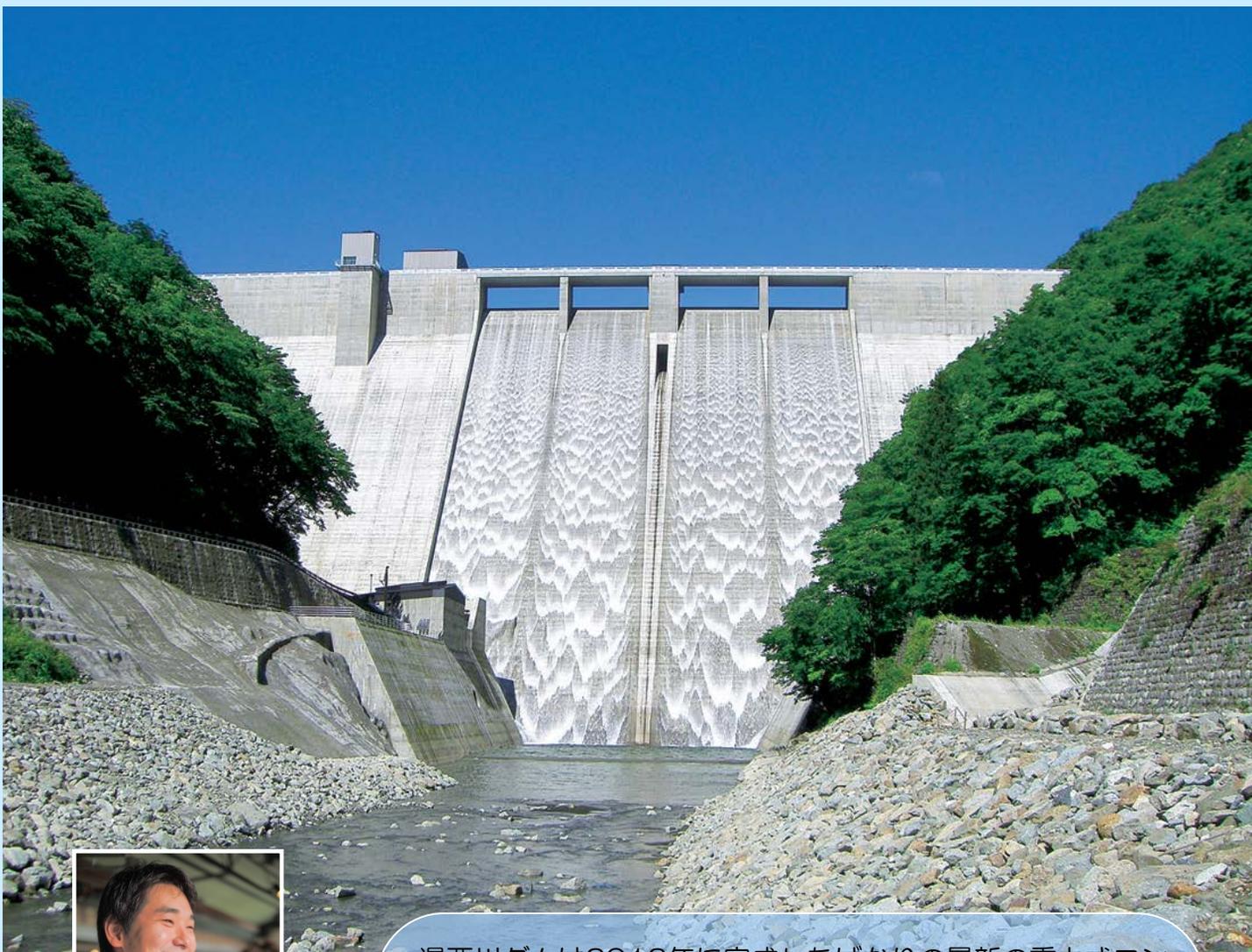
川治ダムは富山県の黒部ダムと同じドーム型アーチダムだ。ダムの上部になるほど薄く、下流側に傾斜した姿は今にも倒れてしまいそうに見えるが、アーチ形状によりダムにかかる力を両側の岩盤へ逃がして支えている。見学会では普段入る事が出来ないダム表面に設置されたキャットウォークと呼ばれる足場へ行く事が出来るが、その時は是非ダムを見上げてドーム型アーチダムの傾斜具合を見て欲しい。五十里ダムや湯西川ダムの重力式コンクリートダムとのダムの厚みの違いにも注目だ。綺麗に丸みを帯びた湖側からのダムの姿も必見。

# ゆ にしがわ 湯西川ダム

重力式ダム



首都圏の急速な都市化や、ライフスタイルの変化によって、急増した水需要にこたえるためにつくられたのが、ボク。洪水被害の防止も大事な役目だよ。巡航RCD工法という工法でつくられたダムで、堤体コンクリート体積約100万立方メートルに対して、実際の打設期間19カ月という短期間での施工を実現したんだ。これも知る人ぞ知る、ボクの自慢。



ダムマイスター  
星野夕陽さんが  
教える湯西川ダムの  
ココがみどころ！

湯西川ダムは2012年に完成したばかりの最新の重力式コンクリートダム。ダム本体は風化も見られずコンクリートは白さが際立つ。出来たばかりのコンクリートダムは白く、だんだん風雨で汚れることで色がグレーへ変わってくる。**この白いダムの姿は今しか見られない貴重な姿だ。**また、湯西川ダムは最低限の設備で低コストを追求して作られているため、**曲線が少なく飾り気は全くなく機能美を感じさせる。**自然と人工的な機能美の調和は見逃せない。建設後61年経つ五十里ダムと最新の湯西川ダムとの見た目や作りの違いを見比べてみよう。